安城市雨水マスタープランを策定します

特集1 雨に強いまちづくりへ

8月末豪雨で浸水した住宅地（柿碕町）

ゲリラ豪雨の脅威

突発的な局地的豪雨や集中豪雨による災害がたびたび報告されています。全国で、1時間降水量が50㎜以上および100㎜以上の発生回数は、以前より1.5～2.5倍も増えています。

平成12年に起こった東海豪雨の当時と比べて、大雨に関する情報が手に入りやすくなりました。しかし、完全な予測は不可能です。今年8月末に発生した局地的豪雨では、安城市でも1時間降水量最大77㎜、総雨量226㎜を記録。床上浸水15戸、床下浸水72戸の被害が出ました。

1時間降水量の年平均回数（全国）

	昭和53～62年	平成10～19年
50㎜以上（滝のように降る）	206回	318回
100㎜以上（息苦しくなるような圧迫感や恐怖感を覚える）	1.9回	4.8回

資料：気象庁

雨水の行方の変化

7月28日、神戸市の都賀川（とががわ）が急に増水し、5人が亡くなる事故が起きました。原因は、上流の市街地化された地区に降った局地的な雨が、一気に河川へ流入したからです。

安城市では、昭和52年から平成15年までの間に、水田・畑の約2割が減少し、都市化が進んでいます。その結果、水田・畑の持つ保水機能が低下。雨水の河川への流量が増大し、はんらんの危険が高まっています。

都市化の弊害はそれだけに留まりません。地下水位や晴天時の河川流量の低下、ヒートアイランド現象など、さまざまな問題が表れているのです。

大池調整池（大東町）

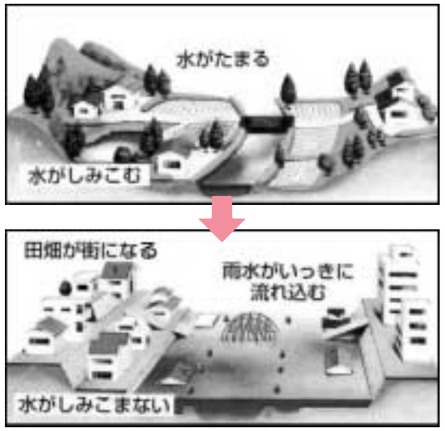
追田川調整池（新田町）

整備を進めた調整池

調整池とは、集中豪雨で発生する局地的な出水を一時的にためる池。洪水や道路の冠水を防ぎます。

安城市の現状

市では、東海豪雨をきっかけとして、平成12年度に「内水対策総合計画」を策定。大池・追田川調整池などの整備を進めました。その効果もあり、東海豪雨を上回る時間最大雨量を記録した8月末豪雨でも、浸水被害戸数は東海豪雨を下回りました。



雨水の行方の変化

今、求められる雨水対策

大雨対策施設を整備しても、8月末豪雨以上の想定を超える降雨があれば、災害は避けられません。このような場合の被害を最小限に留めるため、新たな方針づくりが必要なのです。市では、今後、水環境や市民・企業との協働などを踏まえ、雨に強いまちづくりを目指す「安城市雨水マスタープラン」づくりを進めていきます。

意見をお聞かせください

●雨に関するアンケート調査

現在、無作為でアンケートを実施しています。今後、市ホームページや広報で、プランの策定状況や、雨・水循環の情報をお知らせします。

●パブリックコメント

安城市雨水マスタープラン原案について、意見を募集します。原案は平成22年10月完成予定です。

●策定時期

平成23年3月

問い合わせ▶土木課